

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2018年7月15日（日）

主 題：「忍耐の先にある幸い」
—聖書的視点—

テキスト：ヤコブの手紙1章1～4節

はじめに

- 私たちはこれまで、「ヘブル人への手紙」を学んできました。今日からヤコブの手紙に入りますが、共通点があります。それは手紙の受けとり人が、ユダヤ人クリスチャン (Messianic Jew) であることです。ですから、旧約聖書やユダヤ教の知識を前提としています。
- まず著者ヤコブは、イエス・キリストの実の弟と言われています。そして次のように述べています。

1:1 神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。

彼は二重の意味で、自分を「しもべ」と置いています。それは一つに「神のしもべ」であり、もう一つは「イエス・キリストの肉のしもべ」です。しかし彼は、イエスとの肉のつながりを強調するのではなく、むしろ霊的なつながりを強調しています。

- 受取人は、各地に離散したイスラエルの12部族である、ヘブル人クリスチャンでした。受け取り人である離散したユダヤ人たちは、自分たちがどの部族であるかを知っていました。エルサレム教会の指導者であったヤコブは、国外に散った同胞（ヘブル人クリスチャン）を励ますために、この手紙を書きました。
- 今日、私たちは神を信じる信仰生活で、ヤコブの手紙から順に大切な点を学びたいと思います。

大切なポイント**1 さまざまな試練に会うとき**

1:2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。

1) 人生と試練

- ヤコブの手紙では、挨拶の言葉の次に、いきなり「試練」(peirasmos:ペイラスモス) という言葉が出てきます。人生と試練、それはコインの表裏のようで一対です。一度しかない人生で、なぜ苦しみや試練、誘惑があるのでしょうか。著者はその奥義を、この書簡で説いていると思います。
- ヘブル的思考のひとつに、著者の頭の中にある最も大きなことが冒頭に来ること（強調点）が多くあります。この書簡が書かれた当時、クリスチャンたちは迫害を受けていました。そういう苦難、苦しみの中で、真っ先に「試練」という言葉が出て来たのではないのでしょうか。
- この「試練」という言葉は、誘惑とも訳せる語です。そして「天秤にかける」という意味があります。すなわち、試練、誘惑を受ける時、それは真価が問われることです。
- ところで、試練は私たちの人生にもあります。「神様、どうしてですか?」、「あの方に、どうしてこんな試練が重なるのでしょうか」、とったりすることがありますね。

ある人は、信仰を持てば苦しみがなくなると期待します。そのように教える宗教は多くあります。苦しみの中で信仰を求めて教会につらなるようになります。そしてやがて信仰を持つようになって、その苦しみがなくなると・・・。信仰を持つ意味は、納得できなく離れていく人もいます。

- ・そこで先ず、私たちが覚えるべきことがあります。それは聖書が教える信仰は、信仰の結果、苦しみがなくなることではないことです。じつは、試練は、神に祈り、感謝できる、そういうものを内に持つ「力」なのです。もちろん、神は苦しみを取り除いてくださるお方です。また、困難を取り除かれるお方でもあります。しかし、神を信じ得られる幸いというのは、今申し上げたようなことであることを覚えておきたいと思えます。

2) さまざまな試練

- ・1:2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。

ところで、2節にありますように、試練にはさまざまなものがあります。健康面での試練、経済面での試練、人間関係で苦しまなければならないこともあります。若い日には、受験などの試練もあります。また、年を取ってからの試練もあるでしょう。苦しみが全くない人は、まずいないと思えます。

- ・また人の目に明らかな試練があれば、誰にもわかってもらえない試練もあります。「あの人、本当に大変だなあ」、「ご苦労だなあ」、とだけ思っただけのこともあります。逆にたから見ると、何でも無いようであるけれども、当人にとっては本当に苦しいということもあります。
- ・さらに、信仰を持っているのに、こういう目に会うならば、信仰に意味がないのではないかという疑問が生じ、信仰そのものが試練に会うこともあります。まさしく「さまざまな試練」です。試練は単純ではありません。こうした、いろいろな意味で、「さまざまな試練」があることを覚えてください。

- ・聖書は「さまざま試練」に出会うとき、どうあるべきかを教えています。

1:2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。

私たちが試練に出会う時、どうあるべきでしょうか。「それをこの上もない喜びと思いなさい」ということが言われています。しかし、試練に出会って喜ぶ人がいるはずはありません。私たちの生まれながらの性質からすれば、苦しいことがあった時に喜ぶというのは、むしろ不自然なことです。

- ・嫌な時は、嫌だ！苦しい時は、苦しい！と思う。それが自然の情でしょう。聖書はそのような生き方を、説いています。しかし聖書はもう一方では、「試練に会うときはこの上もない喜びと思いなさい」、教えています。注意して読むならば、「この上もない」という言葉が目にとまります。「この上もない」とは、それ以上はないということです。
- ・冷静に考えるなら、聖書はとんでもないことを教えています（逆説）。しかし、聖書がそのように教えることには背景（意味）があるのです。言い換えれば、どうして試練が私たちにとって、「この上ない喜び」となるのでしょうか。それが次の大切なポイントです。

2 試練を喜ぶ理由

1) 信仰が試される

1:3 信仰がためされると忍耐が生じるということ、あなたがたは知っているからです。

- 信仰を通して、私たちの信仰が試される、それはどんなことでしょうか。それは神がこの私を、あるいは私の信仰を本物にするため、必要があって私に試練の道を通らせるということです。
- 皆さん！ここで注意してください。神は私たちの信仰が本物であるどうか分からなくて、試されるのではないことです。神は全知全能であるお方、私たちの信仰が本物であるかどうかは、よく知っておられます。
そうではなくて、私たちの信仰を、ある試練を通過させることで、将来のために、本物にしようとしておられるということです。
- 自分では本物の信仰を持っているつもりでも、実はそうではないことがあります。逆に、自分では自分の信仰は本物ではないと思っても、神の目からご覧になると、それは本物である、というようなこともあります。とにかく、神は私たちにそれなりに、苦しい経験を通させることによって、私たちの信仰が少しでも本物に近づくようにしてくださるのです。
- 人間という者は、苦しみがなければ、我がままで、自分本位な存在にすぎません。苦しみという試練を通して、忍耐を学ぶのです。
著者は、「**試練に会うときはこの上もない喜びと思いなさい**」と言いました。
では、何が喜びでしょうか。⇒ それは、神が私の信仰を、本物にしようとして下さっていることにあります。すなわち、試練に出会うということは、それだけ神が私に望みを持ち、期待をし、待っていてくださる証拠であるということです。神は愛であるお方ですから、あえて私たちに試練を与えたりはされません。そういう意味で、試練が喜びになってくると言えるのです。
- ここで私たちは、お互い注意しなければならないことがあります。
それは私たちは人と比べやすい存在であるということです。もし、私があの人のようなであれば、こんな試練に会うことはないのではないか。逆にあの人信仰だったら、これくらいの試練は乗り越えられるのではないか。と考えることです。しかし、信仰というものは、あの人、この人の信仰と比べて、私の信仰はどうかというものではありません。
- 私がいつも語っているように、神が私に与えてくださる人生道場（訓練学校）は、個人レッスン（プライベートレッスン）であることです。神は私の個々に、愛のレッスンを与えておられます。そうです。神が私を育てようと見て下さっている、それが試練が喜びとなる第1のポイントです。試練が喜びとなる理由は、まだ他にもあります。

2) 忍耐が生じる

- 信仰は試されると、生じるものがあります。それは忍耐です。
私はお魚が大好きであります（食べる方です）。同じ魚でも、水が冷たいところであれば、身が締まっているそうです。同じように、忍耐ということが身につかないと、何か締まりのないクリスチャンになってしまわないでしょうか。
- 今の時代、忍耐はあまり歓迎されません。生活は非常に便利になりました。ボタン一つ押せば、冬でも暖くなる仕組みの中で、私たちは生活しています。寒さ一つとっても、我慢（しのぐこと）が不得手となっています。精神的な問題、人間関係の問題においては、ことさらに、苦しい経験、嫌な経験をしのぐことができなくなっています。つまり、糸が切れるように簡単に切れてしまいます。

- しかし聖書は、いたるところで、忍耐は私たちが持つべき大切な宝のようなもので、品性を養い、力であると教えています。忍耐が生じることによって、締まったクリスチャンにさせていただけるのです。
- 試練の下にある時は、とても辛いものですね。しかし、一人ではありません。イエスは言われました。 **マタイ福音書 28:20** **見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。** 苦しみの中にも、私たちの主はともにいてくださいます。なんとという幸いではありませんか。主がともにいてくださることが分かると、主は忍耐という宝を与えてくださいます。そして、それが喜びとしてくださるのです。ですから、辛い、嫌だ、と思う経験の中でも、神は私に忍耐を学ばせてくださる、ということ忘れないようにしたいと思います。
- 忍耐は、ものさしでは測れません。しかし、昨日よりも今日、今日よりも明日、自分の中に多くの忍耐が生じるとするならば、なんと幸いではありませんか。そして、もう一つ試練が喜びとなる理由があります。

3) 成長を遂げた完全な者となる

1:4 **その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。**

信仰が試されて忍耐を働かせることによって、成長することができるということです。神は私たちを、成長を遂げる者にしようとして、試練に合わせられます。

- しかし、神はこう語っています。 **1コリント10:13** **10:13** **あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。**
- 言い換えれば、試練の中で、潰れることはないということです。忍耐を働かせる気持ちがなければ、ダメかもしれませんが、試練を働かせてゆくときに、私たちは潰れることはなく、かえって成長を遂げた者となることができます。
- ところで、私たち人間は、人を見るときに、その人の過去のデータを見てしまいやすいものです。人間関係においても、その人との間であった過去の経験をどうしても気にしてしまいやすいです。あの人は前にこうであった！ こんなことを言った！ だからこうなんだ！ となってしまいます。このように、過去をデータとして見られてしまうことで、私たちは互いにどんなに苦しい思いをしていることでしょうか・・・。
- しかし、イエス・キリストは過去のデータで私たちを見るお方ではありません。成長する可能性を見てくださっています。将来を見ながら、現在の私を見て下さっていることがわかります。なんとという幸いではありませんか。
- ペテロを思い出してください。彼は多くの失敗をしました。彼は主であるイエスを、3度にわたり拒否しました。とんでもないことです。しかしイエスは、お前はこんな失敗をした！ あの時に、あんなことを言った！ だからお前はダメなんだ、とは言われませんでした。
- 彼は復活のイエスに出会い、聖霊の油注ぎを受けた後は、造り変えられました。イエスは、ペテロを雄々しく殉教してゆくまで見ておられました。私たちがイエスを愛し、従っていこうとするとき、イエスは成長を遂げた将来の私を見てくださっているということです。将来性という視点で、私を見てくださるお方が、私たちの主です。
- 奉仕においても同じでしょう。自分がしたいと思うこと、比較的華やかなこと、また楽

な奉仕の中では、そんなに成長しないと思います。むしろ人が嫌がるような、自分もあまりしたくないような、できたら逃れたいと思うような奉仕の中にこそ、成長できる鍵があるのではないかと思います。

- では、どうすれば良いのでしょうか。それは、置かれたところで、従順であることです。たとえ自分が理解できないような所でも、主が私を置いてくださっていると受け止めることです。ヤコブはなぜ、この書簡を書いたのでしょうか？
- 彼はイエスの実の弟でした。幼少に頃からイエスを知っていました。しかしそれ肉の目で見たイエスでした。ヤコブが本当の意味で、自分の兄イエスがメシアであることが分かったのは、十字架にかかれ、死んで3日目に復活してからでした。死んで復活してくださったお方が、死を打ち破ってくださったお方が、私の実兄であり、また神のメシアであることを真の意味で知るようになりました。そのヤコブがこの勧めを書きました。なんといい幸いではありませんか。私たちに心迫ってくるものがあります。
- 私の友人クリスチャンが次のように言いました。ヤコブの手紙のテーマは「聞くこと」ではなく「行うこと」である。「教理」ではなく「行動」である。私はこの言葉を聞いた時、行動に移すクリスチャンとさせていただきたい、と願いました。私たちはこれから、このヤコブの手紙を「謙遜」という「キーワード」で学んでいきたいと願います。主の前に謙遜にさせていただかなければ、聖書の勧めのことばを行動に移すことはできないからです。

ま と め

主 題：「忍耐の先にある幸い」
—聖書的視点—

1:2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。

- 今日、私たちはヤコブの手紙の冒頭から大切なことを学びました。それは「忍耐の先にある幸い」（将来性を見る聖書的視点）です。私たちはなぜ、試練をこの上ない喜びととらえることができるのでしょうか。
 1. 信仰が試される
 2. 忍耐が生じる
 3. 成長を遂げた完全な者となる

* God bless you!